

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17049

建築物名称	富士通ゼネラル新倉庫棟
建築主	株式会社富士通ゼネラル 代表取締役社長 斎藤 悦郎
建築物の所在地	川崎市高津区末長3丁目1116-3ほか24筆
設計者氏名、建築士事務所名	桑田 具実 株式会社安藤・間 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,600.00m <sup>2</sup>
用途	倉庫
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	平成30年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士通ゼネラル新倉庫棟	階数	地上3F
建設地	川崎市高津区末長3丁目1116-3ほか24筆	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 竣工	評価の実施日	2018年2月1日
敷地面積	45,805 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤大樹
建築面積	1,280 m <sup>2</sup>	確認日	2018年2月9日
延床面積	3,600 m <sup>2</sup>	確認者	桑田具実



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合。 沿道の高木緑化でまちなみを演出。 空地率は約50%。	1.7/4.3	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.5</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	評価対象外 評価対象外 評価対象外	0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合。 空地率は約50%。	0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	評価対象外 評価対象外 評価対象外 評価対象外	0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	水栓に節水コマを設置 評価対象外	3.3/4.7	3.5
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	適切な耐用年数の建材を利用	0.4/0.8	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	水栓に節水コマを設置	2.6/4.0	3.2
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車場、駐輪場の確保。最寄り駅からのマイクロバスを運行。	0.4/0.6	3.9
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合。 空地率は約50%。	0.9/2.3	2.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	評価対象外 評価対象外 評価対象外 評価対象外	0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	鉄骨に錆止め塗装、2回塗り。	0.1/0.2	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	既存躯体の利用なし。 リサイクル資材の利用なし。	0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	評価対象外 評価対象外 評価対象外 評価対象外	0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					2.8	0.43	-	-	2.8	
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性						3.0			
2	高度情報通信設備対応						3.0			
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観						3.0			
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.50	2.8	
2	免震・制震・制振性能						3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数	R					3.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R					2.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R					3.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R					3.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R					3.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	R					3.0	0.20		
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備						3.0	0.25		
2	給排水・衛生設備						1.0	0.25		
3	電気設備						3.0	0.25		
4	機械・配管支持方法						3.0	0.25		
5	通信・情報設備						-	-		
<b>3 対応性・更新性</b>										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり						2.0	0.60	2.9	
2	空間の形状・自由さ				壁長さ比率0.3未満		4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性						-	-		
2	給排水管の更新性						3.0	0.29		
3	電気配線の更新性				天井なしで計画		3.0	0.14		
4	通信配線の更新性						-	-		
5	設備機器の更新性						3.0	0.29		
6	バックアップスペースの確保						3.0	0.29		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出				G	W	H	緑化指針の基準に適合。	2.0	0.30	2.1
2 まちなみ・景観への配慮				G				2.0	0.40	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		2.0	0.50	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.1
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H							
2 自然エネルギー利用	W		H							
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =	-					
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング	W		H							
4.2 運用管理体制	W		H							
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング	W		H							
4.2 運用管理体制	W		H							
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護				W	R					
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1	雨水利用システム導入の有無									
2	雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減				W	R					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W	R					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R					
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
3.2 フロン・ハロンの回避										
1	消火剤			W						
2	発泡剤(断熱材等)			W						
3	冷媒			W						
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮				W						
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W					
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
1	雨水排水負荷低減				R					
2	汚水処理負荷抑制				R					
3	交通負荷抑制				R					
4	廃棄物処理負荷抑制				R					
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
1	騒音									
2	振動									
3	悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
1	風害の抑制									
2	砂塵の抑制									
3	日照障害の抑制									
3.3 光害の抑制										
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									